



旧あおば生命のご契約者さまへ 変額保険（特別勘定）決算のお知らせ



平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

2022年度の「変額保険（特別勘定）決算のお知らせ（2022年4月1日～2023年3月31日）」を送付いたしますので、ぜひご一読ください。

- 変額保険（特別勘定）につきまして、2022年度の運用経過と2023年度の運用方針をお知らせいたします。
- 当資料は、ご契約者様への情報提供を目的として作成しております。旧あおば生命変額保険については、現在新規のお取り扱いはございません。
- お問い合わせは、担当ライフプランナー[®]または裏面記載のカスタマーサービスセンターまでお願い申し上げます。

「ライフプランナー[®]」は「ザ・プルデンシャル・インシュアランス・カンパニー・オブ・アメリカ」の登録商標です。

当期の資産運用実績と投資行動の分析

2022年度の日本経済は、年度前半はコロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む中で個人消費の回復や設備投資の増加など、景気は緩慢ながらも一部で持ち直しに向かう動きが見られました。その後はインバウンド需要の持ち直しなどが景気下支え要因となる一方で、海外経済の減速を背景に、鈍い回復ペースにとどまりました。

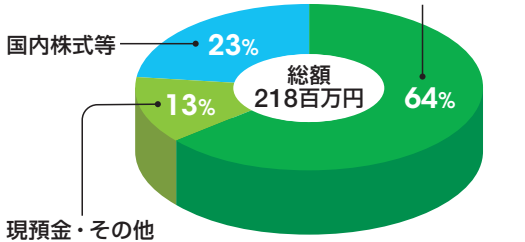
このような経済環境の中、国内債券市場（10年国債利回り）は、前年度末よりも金利上昇しました。年度初めは日銀のイールドカーブ・コントロールの下、変動許容幅上限の0.25%近辺での推移が続きました。7月以降は日銀による金融政策正常化観測の後退や世界的な景気減速懸念の高まりなどから一時的に金利の低下が見られる局面もありましたが、グローバルなインフレの根強さが確認されると、金利水準は0.25%程度に戻りました。その後、12月に日銀が長期金利の変動許容幅を引き上げたことで、金利は上昇し、概ね変動許容幅上限の0.50%近辺で推移しました。3月には金融政策決定会合で日銀が金融政策の現状維持を決定したこ

とに加え、米国の中堅銀行の経営破綻により金融システム不安が高まったことなどから金利は低下しました。10年国債金利は年度を通してみると前年度末比0.11%高い0.32%で取引を終えました。

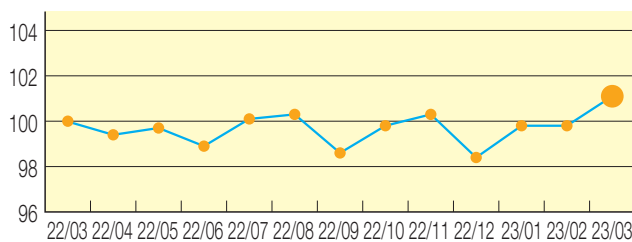
国内株式市場（日経平均株価）は、前年度末よりも上昇しました。年度前半はインフレの高止まりから欧米で金融引き締め強化の懸念が高まり、海外株式が軟調に推移する中、不安定な動きが継続しましたが、円安の進展が下支えとなりました。その後は、12月に日銀による金融政策修正を受け、株価は一時的に下落しましたが、年明けに米国株の持ち直しを背景に上昇に転じました。年度末にかけては、世界的な金融システム不安を背景に株式相場は下落したものの、各国の政府や中央銀行の迅速な対応を好感して回復する展開となり、日経平均株価は前年度末比220.05円上昇し、28,041.48円で取引を終えました。

期末における当勘定の資産残高は218百万円となり、2022年度の運用実績は+1.12%となりました。

■ 資産構成



■ 運用実績推移 (当期)



※ 当特別勘定の運用実績は、2022年3月末を100として指数化しております。
 ※ このグラフは過去の実績を示したものであり、将来の成果を予測するものではありません。

今後の運用方針

今後も現行の国内債券中心のポートフォリオを維持する予定です。

特別勘定と資産運用について

■ 特別勘定資産の運用に係る基本方針

特別勘定の資産運用にあたっては、国内外の株式・国内外の公社債・その他の有価証券等を運用対象に分散投資を図り、特別勘定資産の着実な成長と中長期的観点に立った収益の確保を目指します。また、リスク分散の観点から、少数の銘柄に偏ることなく、資産種類（株式・債券・外国証券・その他の有価証券等）およびそれぞれの資産ごとの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

■ 運用対象

主な運用対象は次のとおりとし、当社は国内外の経済・金融情勢や株式・公社債市況の動向等を勘案して具体的投資を決定します。ただし、この運用対象については、今後変更することがあります。

- ① 国内外の株式および公社債、② 国内外のその他の有価証券（REITを含む）等、③ 国内外の株式および公社債を投資対象とする国内外の投資信託等、④ 貸付金、⑤ コール・ローン、コマーシャル・ペーパーおよび預貯金等、⑥ デリバティブ取引

株式に関しては、当社の選定した投資信託へ投資を行い、中長期的な収益の確保を目指します。公社債に関しては、信用度・流動性ともに良好な国内外の債券の中から、発行体のファンダメンタルズ（財務状況等）を重視した銘柄選定を行い、安定した利息収入と値上がり益の確保を図ります。また、外貨建投資に関しては、為替市場動向にも充分配慮し適切な運用を行います。特別勘定資産の効率性・安定性を高め、価格変動リスクや為替変動リスクなどを回避するため、国内外において行われる先物取引・オプション取引を有効に行うことがあります。

■ 特別勘定に属する資産の評価の方法

特別勘定資産の評価は毎日行い、その成果を積立金の増減に反映させます。特別勘定資産の評価方法は、次のとおりとします。ただし、この評価方法については、今後変更することがあります。（2023年3月現在）

- ① 有価証券については、時価評価するものとします。ただし、外国の有価証券については現地における前日の価格、円建債券（転換社債は除く）については前日の価格を用いて時価評価を行うこととします。
- ② ①以外の資産については、原価法によるものとします。
- ③ 外貨建資産および負債の円貨換算に使用する為替レートは、当日の対顧客電信売相場（TTM）を使用するものとします。
- ④ 為替予約、先物・オプション取引等のオフバランス取引については、含み損益を損益に計上するものとします。

■ 準拠規定

特別勘定資産の運用は、生命保険会社の運用に関する法令等に従って行います。

■ 運用体制

特別勘定の運用にあたっては、当社が運用を行います。（2023年3月現在）なお、運用体制については、今後予告なく変更することがあります。資産運用プロセスは以下のとおりです（別図参照）。

- ① 当社の投資委員会にて総合的な投資環境を検討し、運用の基本方針を定めます。
- ② 市場の動向により、適宜資産配分の調整を行います。
- ③ 当社の運用担当チームリーダーは、運用の成果をレビューします。
- ④ 当社の投資委員会においても月1回運用の成果をレビューします。
- ⑤ これらに加え、専任の当社資産運用リスク管理担当のチームリーダーが運用に伴うリスクを常にモニターしています。



当期の資産および収支の状況

2022年度末特別勘定資産の内訳

項目	金額	構成比
現預金・その他	29百万円	13.3%
株式	—	—
公社債	139	64.0
外国株式	—	—
外国公社債	—	—
その他の証券	49	22.6
貸付金	—	—
特別勘定計	218	100.0

※ 公社債は、日本国債で運用しております。

※ その他の証券は、TOPIX連動型上場投資信託で運用しております。

契約月別の運用実績の例

(一時払終身型、40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合)

契約日	保険金額		契約月別運用実績			
	変動保険金額	年換算	年換算	年換算		
昭和62年	5月1日	1,000万円	△785万円	98.02%	1.92%	
	6月1日	1,000	△804	91.53	1.83	
	7月1日	1,000	△787	95.54	1.89	
	8月1日	1,000	△782	96.14	1.91	
	9月1日	1,000	△806	88.53	1.80	
	10月1日	1,000	△807	87.46	1.79	
	11月1日	1,000	△778	94.70	1.90	
	12月1日	1,000	△765	97.56	1.95	
	昭和63年	1月1日	1,000	△753	100.21	1.99
		2月1日	1,000	△780	91.50	1.86
		3月1日	1,000	△806	83.61	1.75
		4月1日	1,000	△827	76.96	1.64
5月1日		1,000	△833	74.50	1.61	
6月1日		1,000	△819	77.38	1.66	
7月1日		1,000	△822	75.80	1.64	
8月1日		1,000	△842	69.77	1.54	
9月1日		1,000	△819	75.28	1.64	
10月1日		1,000	△826	72.56	1.59	
11月1日		1,000	△818	73.92	1.62	
12月1日		1,000	△828	70.41	1.56	
昭和64年	1月1日	1,000	△831	68.88	1.54	
	2月1日	1,000	△839	65.98	1.49	
	3月1日	1,000	△835	66.16	1.50	
	4月1日	1,000	△839	64.69	1.48	
	5月1日	1,000	△847	61.81	1.43	
	6月1日	1,000	△851	60.07	1.40	
	7月1日	1,000	△844	61.15	1.42	
	8月1日	1,000	△853	57.91	1.37	
	9月1日	1,000	△847	58.79	1.39	
	10月1日	1,000	△853	56.57	1.35	
	11月1日	1,000	△851	56.30	1.35	
	12月1日	1,000	△863	52.66	1.28	
平成元年	1月1日	1,000	△864	51.55	1.26	
	2月1日	1,000	△858	52.55	1.28	
	3月1日	1,000	△846	54.77	1.33	
	4月1日	1,000	△824	60.14	1.44	
	5月1日	1,000	△822	59.81	1.43	
	6月1日	1,000	△818	60.29	1.45	
	7月1日	1,000	△816	60.05	1.45	
	8月1日	1,000	△802	62.98	1.51	
	9月1日	1,000	△789	65.43	1.56	
	10月1日	1,000	△789	64.88	1.55	
	11月1日	1,000	△799	61.68	1.49	
	12月1日	1,000	△761	70.59	1.67	
平成2年	1月1日	1,000	△763	69.23	1.64	
	2月1日	1,000	△762	68.81	1.64	
	3月1日	1,000	△775	64.81	1.57	
	4月1日	1,000	△783	62.11	1.52	
	5月1日	1,000	△784	61.41	1.51	
	6月1日	1,000	△780	61.71	1.52	

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。但し、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示していません。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の2023年3月末までの運用実績を示したものです。なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障等にあてられるものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年換算は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

保有契約残高(2023年3月末現在)

項目	件数	金額
変額保険(有期型)	一件	一百万円
変額保険(終身型)	231	1,700
合計	231	1,700

特別勘定の運用収支状況(2022/4~2023/3)

項目	金額
利息配当金等収入	1百万円
有価証券売却益	2
有価証券償還益	—
有価証券評価益	—
為替差益	—
金融派生商品収益	—
その他の収益	—
有価証券売却損	0
有価証券償還損	—
有価証券評価損	0
為替差損	—
金融派生商品費用	—
その他の費用	0
収支差額	2

契約日	保険金額		契約月別運用実績			
	変動保険金額	年換算	年換算	年換算		
平成3年	7月1日	1,000万円	△770万円	63.45%	1.56%	
	8月1日	1,000	△771	62.46	1.54	
	9月1日	1,000	△762	63.97	1.58	
	10月1日	1,000	△771	61.09	1.53	
	11月1日	1,000	△771	60.29	1.51	
	12月1日	1,000	△758	63.00	1.57	
	平成4年	1月1日	1,000	△755	63.06	1.58
		2月1日	1,000	△755	62.20	1.56
		3月1日	1,000	△751	62.52	1.57
		4月1日	1,000	△745	63.64	1.60
		5月1日	1,000	△740	63.99	1.61
		6月1日	1,000	△741	63.11	1.60
7月1日		1,000	△729	65.37	1.65	
8月1日		1,000	△717	67.53	1.70	
9月1日		1,000	△714	67.58	1.70	
10月1日		1,000	△704	69.44	1.74	
11月1日		1,000	△703	69.04	1.74	
12月1日		1,000	△706	67.62	1.72	
平成5年	1月1日	1,000	△705	67.02	1.71	
	2月1日	1,000	△701	67.37	1.72	
	3月1日	1,000	△696	67.97	1.74	
	4月1日	1,000	△706	64.94	1.68	
	5月1日	1,000	△720	60.96	1.60	
	6月1日	1,000	△718	60.65	1.60	
	7月1日	1,000	△703	63.74	1.67	
	8月1日	1,000	△707	61.89	1.64	
	9月1日	1,000	△709	60.75	1.62	
	10月1日	1,000	△705	61.15	1.63	
	11月1日	1,000	△698	62.12	1.66	
	12月1日	1,000	△665	69.33	1.81	
平成6年	1月1日	1,000	△684	64.20	1.71	
	2月1日	1,000	△712	56.77	1.55	
	3月1日	1,000	△712	56.10	1.54	
	4月1日	1,000	△705	57.26	1.57	
	5月1日	1,000	△509	56.11	1.55	
	6月1日	1,000	△519	53.76	1.50	
	7月1日	1,000	△517	53.64	1.50	
	8月1日	1,000	△512	54.13	1.52	
	9月1日	1,000	△512	53.58	1.51	
	10月1日	1,000	△500	55.58	1.56	
	11月1日	1,000	△498	55.40	1.56	
	12月1日	1,000	△486	57.33	1.61	
平成7年	1月1日	1,000	△488	56.45	1.60	
	2月1日	1,000	△463	60.94	1.70	
	3月1日	1,000	△444	64.15	1.78	
	4月1日	1,000	△438	64.99	1.80	
	5月1日	1,000	△434	65.12	1.81	
	6月1日	1,000	△416	68.43	1.89	
	7月1日	1,000	△406	69.89	1.93	
	8月1日	1,000	△437	63.04	1.78	

旧あおば生命の変額保険に関するご注意

旧あおば生命の変額保険について、特にご注意いただきたい事項がありますので、必ずご一読ください。

1. ご契約に係る費用について

● 変額保険は、お払い込みいただいた保険料のうち、その一部が保険契約の締結・維持・死亡保障などに係る費用や特別勘定の運用に係る経費等に充てられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。また、ご契約後も定期的に保険契約の締結・維持・死亡保障などに係る費用や特別勘定の運用に係る費用が控除されます。

※ 控除される費用のうち、保険契約の締結・維持や特別勘定の運用などに係る費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間・保険料払込方法（回数）・保険金額により、契約毎に異なります。死亡保障に係る費用は、契約毎に異なるとともに、保険期間中毎月変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんのでご了承ください。

※ その他お客様にご負担いただく費用には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、お客様はこれらの費用を間接的に負担することとなります。

2. 運用リスクについて

● 変額保険は、特別勘定の運用実績に応じて保険金額や解約返戻金額が変動する^{*1}仕組みの保険です。特別勘定に属する資産の運用実績に影響を与える指標としては、金利、為替レート、株価、債券価格、その他の有価証券相場等があります。

● 運用実績が保険金額や解約返戻金額に反映され、積立金がこれらの指標の変動による影響を受けるため、運用リスクがあります。従いまして、株価の下落や金利の上昇および信用悪化に伴う債券価格の下落、為替の変動（主に円高）などにより、解約返戻金額がお払い込みいただいた保険料の合計額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれ^{*2}があります。この保険に関する運用リスクは、ご契約者または受取人に帰属します。

*1 特約の保険金額・給付金額は主契約と異なり変動することはありません。

*2 解約返戻金に最低保証はありません。

プルデンシャル生命保険株式会社
本社 / 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10

カスタマーサービスセンター

0120-810740

パートナーフォーユー [受付時間] 平日9:00~18:00
土日9:00~17:00
(祝休日、年末年始を除く)

※ご希望の照会内容やお手続きによっては、カスタマーサービスセンターから担当ライフプランナーへ対応を代わりにいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

インターネットホームページアドレス <https://www.prudential.co.jp>